

平成 27 年度 第 4 回 広島県立大崎海星高等学校活性化地域協議会 議事要旨

【日 時】 平成 28 年 2 月 23 日 (火) 14 : 30 ~ 16 : 30

【場 所】 広島県立大崎海星高等学校

【出席者】 (敬称略, 50 音順)

出口 一伸, 大林 秀則, 閑田 大祐, 小林 弘晁, 小林 弘志, 高田 幸典, 谷川 敏樹

取釜 宏行, 二宮 力, 文田 天 (委員 10 名) 三浦 喜成, 依田 功二 (県教育委員会事務局 2 名)

【議事概要】

1 開 会

○校長挨拶 ○会長挨拶

2 説 明

(1) 第 3 回協議内容について

(2) 平成 27 年度の取組について

(3) 高校生による中山間わくわく事業について

(4) 平成 28 年度入試における県外等からの出願状況について

▶ 地元中学校からの出願率が大幅に向上している要因は何か。

→ ・公営塾に期待している生徒が多いのではないかと。

・2 年間かけて行ってきた取組が中学生・保護者に伝わってきたのではないかと。特に、高校生が地域で様々な活動していることが認められてきているのではないかと。島外での活動も含め、今後も継続して欲しい。



3 協 議

(1) 「大崎海星高校魅力化プロジェクト」推進計画について

▶ 平成 30 年度入試における地元中学校からの進学率の目標を 60% に設定しているが、妥当な目標である。

▶ 島外 (主に県外) からの入学者を増加させることが必要である。計画に従って取り組んで欲しい。

▶ 島外中学生で宿舎を利用する生徒に対して、安心して暮らせるようなフォローが必要である。同窓生による島親を中心として、地域に馴染めるような取組が必要である。

(2) 平成 27 年度学校活性化地域協議会報告書について

▶ 大崎上島町の姉妹市 (武蔵野市) への働きかけを行ってみたいかどうか。

▶ 地域の人を中心として、高校に来校する人を増やす取組を行うことによって、来校者に情報発信してもらうことも有効である。気軽に来校できる雰囲気づくりを行って欲しい。

▶ 数年後に控える創立 20 周年を一つのきっかけにして、同窓生に高校の現状を知ってもらうと同時に、情報発信してもらうことも有効である。

(3) 平成 29 年度入試における県外等からの生徒募集について

▶ 民泊で来島する中学生に対して、展示スペースの活用等、訪れてみたいと思わせる仕掛けが必要である。

▶ 興味を持つ県外の中学生・保護者、NPO 関係者が来島するツアーの企画は有効な取組である。町からの補助も含め、実現に向けて取り組んでいく。

▶ 和太鼓部・ソーラン部という資源を活用すること等、高校生が頑張っている姿を地域の人にアピールすることによって、孫留学への道も開けるのではないかと。

4 まとめ

5 閉 会

○会長挨拶

※本協議会は、公開としております。